

P-37

## 黄連解毒湯が運動時ヒト体温に及ぼす影響について

筑波大学<sup>a)</sup> 北里研究所附属東洋医学総合研究所<sup>b)</sup>

○池田充宏<sup>a)</sup> 古藤高良<sup>a)</sup> 古藤昭子<sup>a)</sup> 丁宗鉄<sup>b)</sup> 荒川和男<sup>b)</sup>

### 目的

筋運動に伴う熱産生は、体温上昇を惹起し運動遂行上の大きな問題となる。我々は苦寒清熱剤として知られる黄連解毒湯が、運動時の体温を低く抑えることを報告した。今回は、投与量の差が運動時の体温にどのような影響を及ぼすかを検討したので報告する。

### 方法

1. 被験者 本研究における被験者は20～23才の健康な男子10名である。
2. 実験条件 実験は人工環境制御室に設置された自転車エルゴメーターをもちいて行なった。人工環境制御室は、温度33℃、湿度63%に設定した。自転車エルゴメーターの負荷は、オールアウト・テストによって得た最大酸素摂取量の75%とした。ペダルの回転速度は毎分50回転とし、運動時間は35分間とした。第一回目の実験終了後の夕食から一週間朝・夕食前に黄連解毒湯を二包ずつ投与し、一週間後の同一時刻に同一条件で第二回目の実験を行なった。
3. 測定項目
  - a. 心拍数
  - b. 直腸温
  - c. 体表温

### 結果

心拍数は投与後の20拍／分に低下が認められ、直腸温も運動終了直後で1.5℃の低下が認められた。体表温も投与後に低下する傾向が見られたが、中でも腹部の低下が著しかった。しかし、投与量の増加による差は見られなかった。